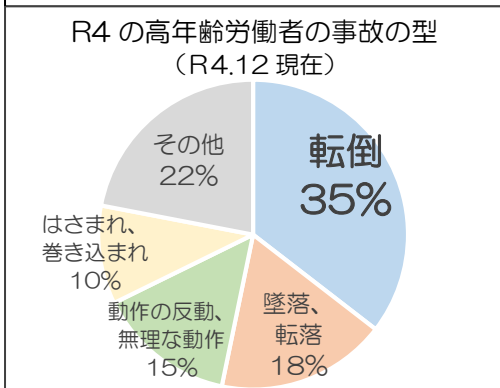
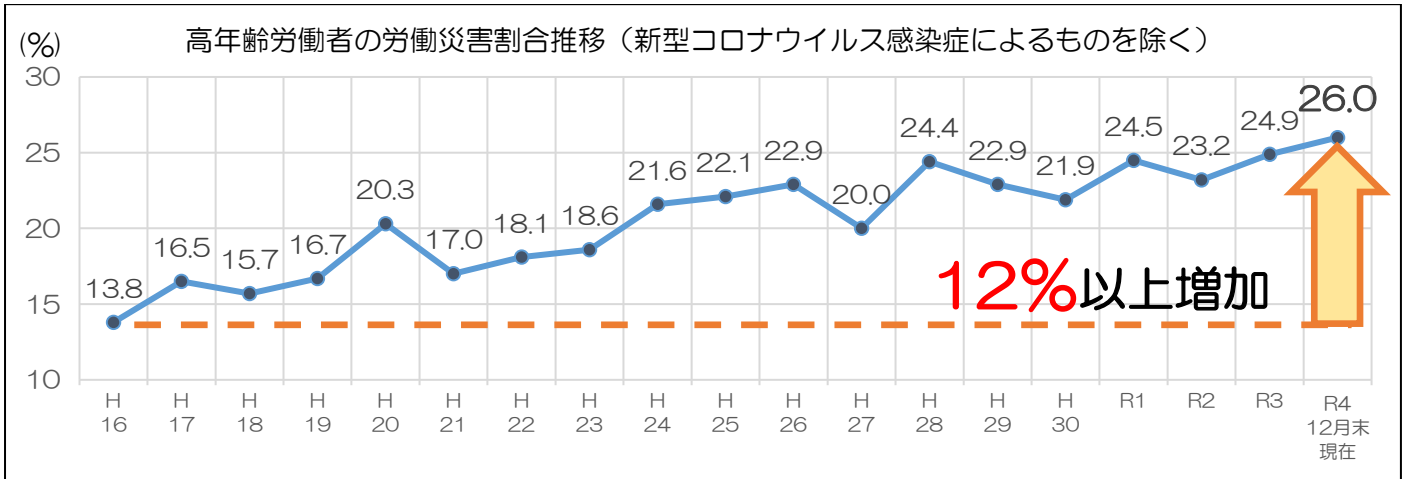


# 高年齢労働者の労働災害が増加しています

岡山労働基準監督署

岡山労働基準監督署管内において、高年齢労働者（60歳以上）の休業4日以上労働災害は、長期的に増加しています。高齢者は身体機能が低下すること等により、若年層に比べ労働災害の発生率が高く、休業も長期化しやすいことが分かっています。体力に自信がない人や仕事に慣れていない人を含めた働く人の労働災害防止を図るために、職場環境改善の取組が重要です。



高年齢労働者の労働災害で、最も多い事故の型は「転倒」です。令和4年は、12月末現在 35%を占めました。転倒を予防するためには、適切な靴を選ぶことも重要です。右のリーフレットを参考に、サイズだけではなく、耐滑性の有無、つま先部の高さ等の確認を行いましょう。



右リーフレットQRコードはこちら ↑



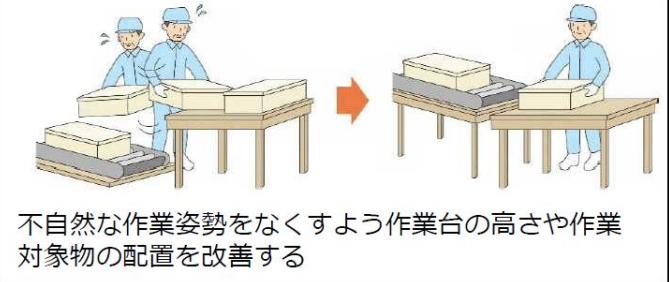
## 高年齢労働者の安全と健康確保のためのチェックリスト

番号	チェック項目	結果	
			優先度
<b>高年齢労働者に多発する労働災害の防止のための対策</b>			
<b>転倒防止</b>			
① つまずき、踏み外し、滑りの防止措置			
1	通路の幅を十分に確保し、整理・整頓により通路、階段、出入口には物を放置せず、足元の電気配線やケーブルはまとめている。		
2	床面の水たまり、氷、油、粉類等は放置せず、その都度取り除いている。		
3	階段・通路の移動が安全にできるように十分な明るさ（照度）を確保している。		
4	階段には手すりを設けるほか、通路の段差を解消し、滑りやすい箇所にはすべり止めを設ける等の設備改善を行っている。		
5	通路の段差を解消できない箇所や滑りやすい箇所が残る場合は、表示等により注意喚起を行っている。		
② 安全な作業靴の着用			
6	作業現場の環境に合った耐滑性があり、つまずきにくい作業靴を着用させている。		
③ 歩行時の禁止事項			
7	書類や携帯電話を見ながらの「ながら歩き」、ポケットに手を入れた「ポケットハンド」での歩行や「廊下を走ること」は禁止している。		
④ 危険マップ等の作成・周知			
8	ヒヤリ・ハット情報を活用して、転倒しやすい箇所の危険マップ等を作成して周知している。		


# ハード面の対策

# 職場環境の改善事例を行いましょよう！


ハード面の対策としては、身体機能の低下を補う設備・装置の導入が有効です。高齢者でも安全に働き続けることができるよう、以下の例を参考に、事業場の実情に応じた優先順位をつけて改善に取り組みましょよう。




不自然な作業姿勢をなくすよう作業台の高さや作業対象物の配置を改善する




防滑靴を利用させる



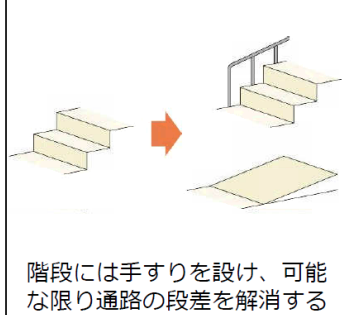
涼しい休憩場所を整備し、通気性の良い服装を準備する



通路を含め作業場所の照度を確保する




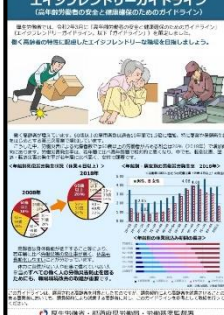
警報音等は聞き取りやすい中低音域の音、パトライト等は有効視野を考慮



階段には手すりを設け、可能な限り通路の段差を解消する

「エイジフレンドリーガイドライン」パンフレット  
QRコードはこちら





# ソフト面の対策

# 体力チェックを行いましょよう！

ソフト面の対策としては、敏捷性や持久性、筋力の低下等の高齢労働者の特性を考慮して、作業内容等の見直しを検討することが重要です。事業者、高齢労働者双方が体力の状況を客観的に把握しましょよう。

ここでは、敏捷性と静的バランスの体力チェック例を紹介しましょよう。以下の質問に回答し、評価点を出してください。その後、実際に体力チェックを行い、自身の感覚と実態のバランスを確認しましょよう。

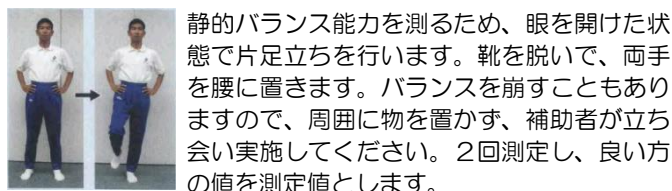
質問内容	回答内容	回答番号	合計点数	評価点
突発的な事態に対する体の反応は素早い方と思いましょようか	①素早いと思いましょよう ②あまり素早い方と思いましょよう ③普通 ④やや素早い方と思いましょよう ⑤素早い方と思いましょよう		→	敏捷性
歩行中、小さい段差に足をひっかけたとき、すぐに次の足が出ると思いましょようか	①自信がない ②あまり自信がない ③少し自信がある ④自信がある ⑤とても自信がある			
電車に乗って、つり革につかまらずどのくらい立っていられると思いましょようか	①10秒以内 ②30秒程度 ③1分程度 ④2分程度 ⑤3分以上		→	静的バランス
眼を開けて片足でどのくらい立つ自信が有いましょようか	①15秒以内 ②30秒程度 ③1分程度 ④1分30秒程度 ⑤2分以上			

【敏捷性】 座位ステップングテスト 20秒間



評価点	1	2	3	4	5
(回)	~24	25~28	29~43	44~47	48~

【静的バランス】 開眼片足立ち



評価点	1	2	3	4	5
(秒)	~15	15.1~30	30.1~84	84.1~120	120.1~

質問回答による評価点よりも実際の体力チェックの評価点が低い場合は、自身の考えより身体機能が衰えていましょようため、注意が必要となりましょよう。上記テストの詳細な手法等については「転倒等災害リスク評価セルフチェック実施マニュアル(※)」を参照してください。(※) QRコードはこちら

